

### ADVANレーシングタイヤインフォメーション

#### 2010年 SUPERGTシリーズ第1戦

2010.3.21

#### SUZUKA GT 300km RACE



横浜ゴム(株)は、フラッグシップ・ブランド「ADVAN」の性能訴求及び企業イメージの向上として、2010年も国内のみならず、海外へも積極的にモータースポーツを支援していく。その活動のひとつであるのが、SUPER GTシリーズ。日本で最も高い人気とハイコンペティションを誇るレースに、ADVANはGT500クラスにおいて、近藤真彦監督率いるKONDO RACINGとのパートナーシップを2010年も継続することになった。HIS ADVAN KONDO GT-Rを駆るのは、ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラと安田裕信の新タッグ。もちろん狙うは年間2勝以上、そして初のチャンピオンである。

2009年のHIS ADVAN KONDO GT-Rは、岡山国際サーキットで開催された開幕戦で、降りしきる雨の中、快走を重ねて優勝を飾り、その後もシーズン半ばまでランキングのトップにつけていた。中盤戦に不運なアクシデントが相次ぎ、王座獲得の夢は潰れてしまったものの、チームもタイヤも著しい進化を遂げていたのは紛れもない事実だ。特に2010年は3台のGT-Rが、それぞれ異なるメーカーのタイヤを装着するため、進化をさらに証明するためには、存在を強調する必要がある。



この開幕戦に持ち込まれるのは、従来のタイヤをベースとしつつ、今年から排気量が改められたエンジンやアップデートされた空力特性に対応したモディファイを加えている。開幕戦の舞台、鈴鹿サーキットでは二度の合同テストが行われており、新スベックのタイヤに対しては、チームからは高評価を得ること

ができた。また、雨の中でのテストもあったことから、ウエットタイヤの確認も完了。万全の構えで臨む開幕戦で再びスタートダッシュを決めて、最後まで最高のムードを保つことが期待される。

GT300クラスでは、織戸学と片岡龍也のドライブするウェッズスポーツIS350が、チャンピオンを獲得。ADVANとともに、喜びを久々に分かち合うこととなった。2010年もADVANのシェアはクラス随一。この開幕戦には22台中14台にタイヤを供給する。チャンピオン候補だったユーザーの多くが引き続き参戦し、さらにHASEMI MOTOR SPORTがGT300クラスに復帰。より強力



なラインアップとなっていることもあり、連覇の期待が込められることとなった。

GT500クラス同様、GT300クラスで用いられるタイヤも2009年のデータをもとに、細かくモディファイされており、先に行われた公式テストでの評価は、各チームとも上々。何よりドライ、ウエットともアップル・K-ONE・紫電がトップタイムを記録したことは、期待材料のひとつだ。加藤寛規の新パートナーである濱口弘も、コンスタントラップでは遜色のない走りを見せていたからなおのこと。一方、2番手に着けていたのはウェッズスポーツIS350。チーム体制、ドライバーとも不動のままとあって、強さを維持したままの参戦になる。この2チームがまずは核となって、開幕戦を盛り上げてくれるはずだ。また、前出のHASEMI MOTOR SPORTがフェアレディZを走らせ、同じマシンで挑むMOLAとデータ共有ができるのも期待要素と言えるだろう。



なお、今回予選はノックダウン方式で争われる。そのことも配慮し、両クラスとも決勝を重視しつつ、予選での一発も視野に入れたコンパウンド選択が行われている。3セッションすべてで冴えた走りをADVANユーザーが披露し、決勝への弾みをつけてくれるのは間違いのない。

#### 2010年 SUPERGTシリーズ第1戦用ADVANTイヤラインアップ

		GT500	GT300
ドライ用スリック	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	3種類 (S, MS, M)	2種類 (S, MS)
	サイズ	Fr 330/710R18, Rr 330/710R17	280/710R18, 280/680R18, 280/650R18
ウエット用レイン	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	2種類 (S, M)	2種類 (S, M)
	サイズ	Fr 330/710R18, Rr 330/710R17	280/710R18, 280/680R18, 280/650R18



## 今年も開幕ダッシュを決めて、その勢いを最後まで ADVANとともにKONDO RACINGが王座獲得を目指す!

近藤真彦監督率いるKONDO RACINGと、ADVANがパートナーシップを結び、SUPER GTのGT500クラスに挑むようになってから、今年がちょうど5年目。07年から2年連続でセパンラウンドを制し、昨年は開幕戦の岡山ラウンドで優勝し、そのレース内容は年々、密度の濃いものとなっている。だが、近藤監督はもとより、ADVANも「年に一度」の優勝では飽き足らなくなってきたようだ。揃って目標を「チャンピオン獲得」と公言していることから、それは明らか。今まで以上に熱いレースを期待できそうだ。近藤監督とドライバーのふたりに、今シーズンに向けた抱負をお願いした。



### 近藤 真彦 監督

「まずチームとしての今年の目標ですが、高いところを、もちろんチャンピオンを狙っていきます。今年の開幕ダッシュは各チーム、各メーカーが狙っていると思いますが、うちも昨年同様、開幕からスタートダッシュを決めたいですね。今年はJP(ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ)のパートナーを、安田裕信にスイッチしました。安田の若さと速さをチームとしては受け入れ、頑張ってもらいます。セパン、岡山、鈴鹿のテストで安田にはずいぶん走ってもらったんですが、期待以上の走りが出ていたので、非常に楽しみです!」

### ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ 選手

「今シーズンの開幕を、すごく楽しみにしている。昨年は僕にとって良いシーズンで、特に第6戦まではチャンピオンシップもリードできていたから。昨年以上の強さを持って挑むことが、今年の僕にとっての目標。昨年のレベルを保ったままシーズンをスタートさせ、コンスタントに戦っていけば、きっとチャンピオンシップを戦えるはず。我々のタイヤは非常にコンペティティブだけど、ライバルたちもきっと進化しているだろう。でも、僕らはそれ以上にプッシュしていくつもりだよ!」

©nismo



**Joao Paulo Lima de Oliveira**  
(ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ)  
1981年7月13日生まれ、ブラジル出身。  
南アメリカF3選手権を経て、01年よりドイツF3選手権に参戦。3年目の03年にチャンピオンに輝いた後、来日して全日本F3選手権を戦う。05年には王座を獲得。08年はフォーミュラ・ニッポンでランキング6位、最上位は2位



### 安田 裕信 選手

「今シーズンはGT500クラスでの2年目となりますが、僕にとってすごく重要なシーズンになるでしょう。KONDO RACINGで走れることを、非常に嬉しく思います。監督からは『焦らなくてもいい、心配しなくても自分のペースでやれ』と言われて、その気遣いに感謝しています。そんな力強い監督と最速のチームメイト、そして、やる気満々のヨコハマタイヤの皆さんと、チャンピオンを獲得できるよう精いっぱい頑張りますので、応援よろしくお願いします!」

©nismo



**安田 裕信 (やすだ ひろのぶ)**  
1983年11月11日生まれ、滋賀県出身  
モータースポーツのデビューはカートレースから。ジュニアの時代から名を轟かせ、2001年には全日本選手権FSAクラスでチャンピオンを獲得。翌年にSRS-F入校、スラッシュで03年から2年間、フォーミュラドリームを戦い、いずれもランキング2位を獲得する。SUPER GTには06年から出場、またこの年にはFCJにも参戦し、ランキングこそ3位ながら、最多勝を挙げた。07年にはF8も合わせて参戦。SUPER GTでは08年にGT300クラスでチャンピオンを獲得した。昨年はHASEMI MOTOR SPORTよりGT500クラスにステップアップし、1勝を挙げてランキングでは7位に。

## 谷口信輝がシビックインターに参戦 レースを盛り上げます、あわよくば!

ADVANがコントロールタイヤを供給するカテゴリーのひとつ、ホンダエキサイティングカップ・シビックレース。その最高峰であるインターシリーズに、谷口信輝の参戦が決定した。ハコ使いの名手として知られるが、FFでのレースは久々、しかも強者揃いのレースとして知られるだけに、楽観視はしていないようだが、言葉からはむしろあわよくばの構えが感じられた。

開幕戦だけでなく、1戦を除いて全部出る予定です。参戦のきっかけは河野さん(RSファイン代表)に、「シビックインターを盛り上げるため出よう」と誘われたこと。僕が出ることで少しでも役立つなら、すぐにOKしました。GTドライバーだから負けられないと言いたいところですが、シビックインターにはその道のスペシャリストが揃っているから、そう簡単にはいかないと思います。僕がFFってイメージはないかもしれないけど、実はデビューしたの頃、鈴鹿クラブマンで少しだけレース経験があるんですよ。タイヤが四つ着いている乗り物なんだから、あんまり違いはないと思いたい(笑)。まあ、でも久々のスプリントでスタンディングスタート、ひとりで走るレースは、普段とは正反対。クルマもみんな同じで、タイヤも同じだから、すごく楽しめそうですよね!

